



■ フォト・エッセイ ■

エジプト遊牧民の一夫多妻

写真・文
常見藤代
Fujiyo Tsunemi

オンム・ムライと2人の娘を連れて来たオンム・ハーリッド

エジプトの東方砂漠に遊牧民のホシユマン族が暮らしている。八年以上続く旱魃のために遊牧生活が困難になり、ほとんどの人が砂漠の中の定住地で観光客相手の仕事に就くようになった。観光業で経済的に余裕ができたために生活の変化が幾つか生まれたが、その一つに複数の妻を持つ男性が増えたことがある。

イスラム教の聖典コーランには、男性は四人まで妻を娶って良いと記されている。ただこれには条件があり、妻達を平等に扱わなければならないことになっているが、現実にはなかなか難しいようだ。

氏族の長であるシエイク・ムサリム（七五歳）には、オンム・ムライ（六〇歳）とオンム・ハーリッド（四〇歳）の二人の妻がいる。オンム・ムライと結婚したのは四〇年ほど前。オンム・ハーリッドとは八年前だ。ムライは砂漠の中の定住地に、ハーリッドはナイル川沿いの町メニアに住んでいるが、シエイクはふだんほとんどメニアでハーリッドと暮らし、ムライの住む定住地に来るのは、年二回のイスラムの祭りの時だけだ。その時はハーリッドを連れてくることが多い。二人の妻は一緒に料理したり食事をしたりと、一見仲むつまじそうに見えるが、シエイクによれば、「二人が一緒に住むのは難しい」とのこと。

オンム・ムライはいう。「シエイクが他に奥さんをもらうと言った時は、頭に来たわよ。でも『好きにしたら』って言ってや



中央のフラッジにはオナム・アビート（左）とヒンド（右）の2人の妻がいる



一緒にパンを焼くヒンドとオナム・アビート



ムハンマド・ムティールの先妻のタイガ（左）は、娘達と砂漠で遊牧生活を送る

ったさ。だって私に何ができるっていうんだい？」。

オナム・ハリッドに、なぜ妻のいる男性と結婚したのかときくと、「ちゃんと私に食べるものと着るものを持ってきてくれれば、そんなこと関係ないわ」と言う。「シエイクはあなたよりずっと年上じゃない？」と私が言うと、「でも彼との間に女の子をふたり産んだわ。年をとっている男はやさしくて良いのよ。シエイクはダハブ（金）が欲しいと言えば買ってしてくれるし、何でも欲しいものを持ってきてくれるの」と嬉しそうだ。

ムハンマド・ムティール（五〇歳）は、定住地で知り合った女性サイード（二二歳）と三年前に結婚した。最初の妻のタイガ（四二歳）は砂漠に暮らしており、彼女を訪ねるのはせいぜい二カ月に一回くらい。ほとんどの時間は定住地でサイードと暮らしている。

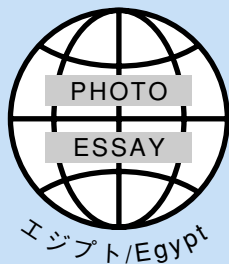
サイードは「好きになった人に妻がいただけよ」とさりとと言う。

彼女の母親のサイータは、「相手の男に妻子があっても、ちゃんと家にお金を入れてくれるならOKさ。年取った男は良い。若い男は他に女をつくったり、妻を殴ったりするけど、年とった男は人間ができていて、そんなことはないから」と言う。

夫が他に妻を娶う場合、先妻がそれに反対することは難しいようだ。「男は妻におかまいなく結婚する」（先述のサイータ）



山を登って泉へ向かうタイガたち



若い年頃の女性たちは皆スカーフで顔を覆っている



アイーダはスラマと2回会っただけで結婚する

そうだ。その場合、妻は離婚して実家に居ることもできるが、そうするケースは少ない。一つには、離婚したら子どもは夫が引き取るという彼らの習慣があるからだ。子どもがかわいくて離婚しないという女性も少なくないようだ。

それでは彼らの結婚は、女性に不利なことばかりなのだろうか？

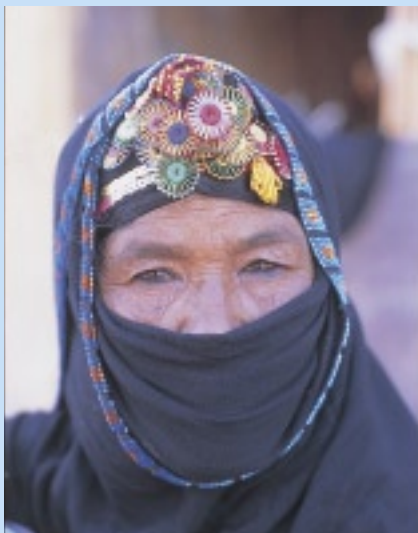
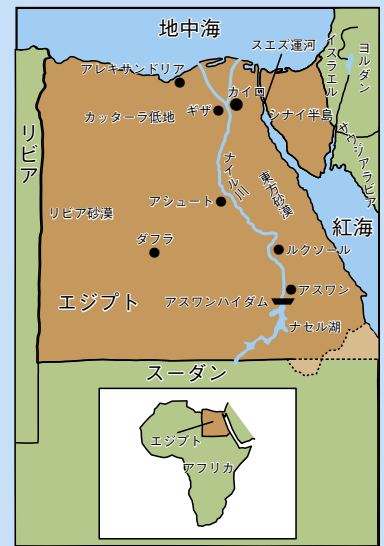
ある遊牧民の男性は言う。「日本で男が妻以外の女性を好きになっただらどうするんだ？妻と離婚して一緒にいるか、隠れてこっそりその女性と付き合いたりするんだらう。それよりは、二人とも自分の妻として認めた方がいいじゃないか」。女性にとっては、不倫という不安定な関係に置かれるより、他に妻がいても、きちんと妻として認めてもらえる方が良いかもしれない。また最初の妻にとっては離婚されるより、妻の座に止まって彼の経済的庇護を受ける方が良い場合も少なくないだろう。

現地で会った日本人男性はこう語った。「ここでは結婚前に男女が付き合ったりできないし、歓楽街などないから女遊びもできない。そう考えると、妻が二人というのは少ない方ではないか」。

一般的なエジプト人の男女間では、恋愛関係を経て結婚というケースも増えてきているが、遊牧民の間では、まず結婚の約束してからでないと男女が会うことはできないし、またその上でも二人きりで会うことは容易ではない。しかしこれは裏を返



アイダの結婚式で食事する親戚の女性たち



サイードの母親のサイーダ



町の遊牧民の女性たち。妹の結婚式で太鼓を打ちながら歌を歌う

せば、女性にとっては、付き合う上で必ず結婚が保証されているということであり、あながち悪いこととは言えない。

ある遊牧民女性に言われたことがある。「日本では、男女が付き合ってから女性が妊娠し、その後で男が逃げてしまうこともあるんだらう？」と。彼らの場合、こういうことは滅多に起こらないからだ。

もちろんお互いをよく知らないまま結婚することのデメリットもあるだろうし、結婚してから違ったというケースも少なくないだろう。だからこそ一夫多妻制が生き延びてくるのかもしれない。また彼らの間では離婚はそれほどタブー視されていない。

前述のサイーダが私に語った言葉は印象的だった。彼女は娘のサイードとムハンマドの結婚について、「ムハンマドに妻がいることは知ってたさ。でも、好きになったら結婚すればいいのさ」と言った。また別の女性は、息子が二人目の妻を娶ったことについて、「好きなのに一緒にならないのはハラーム（宗教的に許されない行為）だ」と言った。もし妻が原因で夫婦間の夜の生活が不可能になった時、夫がそれを我慢して他の妻を娶らないのはハラームだという意見も、他の女性から聞いた。

イスラムの一夫多妻は、結婚しても他の異性を好きになってしまう人間の弱さを神が認め、それへの解決策を与えてくれたもののように、私には思えてくる。

(つねみ ふじよ/写真家)